

シバザクラ600株を植栽



写真上は植栽に汗を流し、みんな笑顔、左は丁寧に株を植える中学生ボランティア



中学生ら80人が協力

三国中の男女バドミントン部、女子テニス部などの生徒約50人と顧問の先生が集合。傾斜地にあ

らかじめ逆丁字形に切り込みを入れた防草シートの下に穴を開け、大野市のシバザクラの里実行委が

育てた苗600株を丁寧に植え付けました。最後に土をならし作業は約1時間で終了。みんなの思いが込められた苗は来春には公園を鮮やかなピンクのじゅうたんに彩ってくれます。今年猛暑で手入れが大変でしたが、部会では花付きの悪くなったシバザクラを再生しようと「挿し芽」や「株分け」に取り組み、約150株を育てました。

ピンクのジュウタン願い込め

汐見公園にピンクのじゅうたんを敷き詰めたい、そんな思いを込め14年目を向かえたシバザクラの植栽事業が11月4日に汐見公園の傾斜地で行われました。当日は11月とは思えない暖かな好天に恵まれ、生活環境部会メンバーとボランティアの約80人が参加しました。

まずは物を「必要」か「不必要」を選択

生活環境部会 家の整理から考える環境問題

家庭からごみをどう減らすかを考える環境講演会が11月11日、三国コミセンで34人が参加して開かれました。整理収納アドバイザーの大塚澄江さん(敦賀市在住)が「環境問題の解決には家庭で努力することが必要」として、ごみとリサイクル問題、整理収納のすすめ、家庭での片付けなどのテーマで話しました。大塚さんは「片付けには精神、時間、経済の面で3つの効果がある。自分が使える量を使いやすい場所に収納する」とし「物を必要か不必要かを選ぶことがスタート」と強調していました。



親子ら38人 さわやかな汗

健康福祉・育成部会 ディスクゴルフのつどい

気軽にスポーツを楽しんでもらおうとディスクゴルフのつどいが10月29日、海浜自然公園の特別コースで開かれました。親子連れ含む38人が参加、公認プロの指導のもとまずは練習。その後、9グループに分かれ競技を開始しました。参加者は3枚のディスクを使い分けながらゴールを目指し、歓声をあげながら和気あいあいと競技を楽しんでいました。



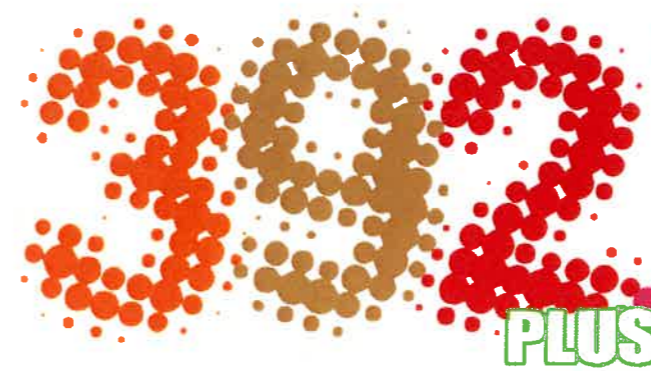
みくに大好き部会 & 三国コミセンコラボ講座

三国の味を楽しもう！ みくにの冬…お魚アレコレ

- ★メニュー：水魚の唐揚げ、すまし汁、パイ貝の刺身、バター炒め
- ★講師：武井ちひろ氏
- ★日時：12月5日(火) 10:30~
- ★場所：三国コミセン



「まち協だより」が県公民館広報紙コンクールで昨年度に引き続き、優秀賞に選ばれました。編集委員のみなさんと毎回、試行錯誤をしながら作り上げている広報紙だけにとてもうれしかったです。紙面には作り手の個性が出るように、わたしが作成した紙面には「こちゃこちゃ感」があるとよくダメ出しが、「白い空間の大切さ」がわかるのはいつでしょうか。まだまだこれから頑張ります！ (希)



みんなのくふうでにぎやかに…

楽しく一緒にまちづくりみくにの魅力をプラス!!

まち協だより 69号 発行 23.11.22

- 防災ミニ教室が最優秀賞
- 三国再発見
- シバザクラを植栽



園児らが初めて避難訓練に参加

10月7日に行われた防災ミニ教室「避難訓練の体験」にはみくに未来幼保園の園児や保育士さんらが初めて参加しました。園児をカートに乗せて三国中学校前の急な上り坂を押しながらの体験。非常時にたくさんの園児をどう守っていくか。そのためには地域全体の協力が必要なることを実感しました。

編集 みくに地区まちづくり協議会事務局 三国コミュニティセンター内 坂井市三国町神明1丁目4-20 ☎82-6400 mikuni-k@mx3.fctv.ne.jp



広小路前を出発する参加者

三国の歴史を再認識

江戸・明治の中心地
(2の部)

街角で和やかに思い出話も



高見順が生まれた家

北前船で栄えた町並み(3の部)
11月12日、町家館をスタート、広小路から木戸と番所が設置されていた久宝持町などの町並みを歩きました。上八町の地名の由来やかつて三国警察署、県の出先機関があった

場所(商工会館)などを散策、各町内の歴史を学びました。高見順の生家から日和山、金鳳寺を巡り、料理屋「開明楼」が繁栄した頃の三国を偲びながら、昭和には映画館があったなどにぎわいのあった当時の思い出話を語り合いました。



西光寺の三国小女郎塚

10月1日、タフノキのある内田家から三国町役場跡や三国小女郎塚のある松ヶ下西光寺のほか、三国のシンボリックな建築、龍翔小学校のあった愛宕山、海運業から銀行業に転換した森田本家、大野藩を支えた三国大野

屋の家屋などを巡りました。各町内では住民が町名の由来や昔の様子を話すなど、参加者も先生役になるという和やかな散策。かつては三国病院や図書館もあり行政の中心であったことがうかがえました。

みくに大好き部会

ハッピー・ハロウィン魔法の地図 170人がまち歩き



各店舗を訪れ、お菓子を手にニッコリ

ハッピー・ハロウィン魔法の地図が10月21日、三国南小、三国北小の児童170人が参加して行われました。今年は4年ぶりにお菓子をもらえる店舗20カ所を設けました。子どもたちは各店で好きなお菓子を手渡されニッコリ。さらに6カ所のスタンプポイントを回り北前船の絵を完成させました。

まちなかは、子どもの歓声でにぎわい「三国の街がよくわかった」「いろんな店があるのをはじめて知った」などの声も。中学生や高校生らもボランティアとしてお手伝いしました。



恒例となった三国南小の校長先生や三国北小の先生。学校では見せないかわいさを披露



写真上は、学生らもボランティアとしてお手伝い、左は三国中に派遣されている英国の先生(右)や灯明寺中の先生も参加

ふくいわが町の防災コンテスト



「防災・安心部会」が最優秀賞

本年度のふくいわが町の防災コンテスト(ふくいの水防災を考える会主催)でみくに地区まち協防災・安心部会が最優秀賞を受賞しました。

表彰式は10月29日、福井新聞社で開かれ副部会長の池端忍、毛利洋一、岡直毅、前部会長の谷口善隆、編集委員の米崎幸郎の各氏が出席、表彰状と副賞を受け取りました。池端副部会長は「ミニ教室などこれまでの活動が認められてうれしい。今後も住民のために活動を続けたい」と抱負を述べました。

辻子審査委員長は福井新聞紙上で「防災教室を開き、中学生が参加するなど層の厚みを増している。意識定着のために講演会や避難経路点検をするなど、継続性が重要との理念が貫かれている」と評価しています。

防災ミニ教室

防災ミニ教室「避難行動の体験」が10月7日、県総合防災訓練に協力して三国北、南小の2校区で行われました。参加者は防災訓練の会場となっている三国北小に集合。各校区に分かれて避難所となっている各小

避難経路を確認

学校までを歩き、経路の安全性や危険箇所などを確かめました。中学生も参加し倒壊する恐れのあるブロック塀や自動販売機など危険箇所をチェック。最後に三国北小に集まり、危険箇所を地図に書き



園児133人がいるみくに未来幼稚園。宮崎園長は「危険な場所が再確認できた。避難時には地域の人たちのご協力をぜひお願いしたい」と話し、防災教室の重要性を感じていました。次回の防災ミニ教室(避難所設置体験)は12月3日午前10時、三国南小で。

まち協だよりは2年連続優秀賞

年4回発行している「みくにまち協だより」が県公民館広報紙コンクールで昨年に続き優秀賞を受賞しました。県内の各公民館などから46作品の応募があり、地域住民に密着した企画内容やレイアウト、継続した広報活動が認められました。10月4日に県立大で開かれた県公民館大会で表彰されました。

3年ぶり三国節輪踊り

神明社の三国節輪踊りが9月16日夜に開かれ、約230人が昔ながらの踊りを楽しみました。三国節保存会、初香会などの協力で、

神明社例大祭

参加者はやぐらを囲み三国節に合わせて、伝統の踊りに汗を流しました。地区民もたくさん加わり、境内は3年ぶりににぎわいが戻りました。



滋賀県長浜市の北郷里(きたごうり)連合地域づくり協議会との交流研修会が11月6日に行われ、23人が参加しました。北郷里協議会は平成25年に「自治会」と「地域づくり協議会」が一つになって設立されまし

長浜市でまちづくり研修

た。北郷里地区の将来を展望し、地区の振興とコミュニティ活動の活性化を図るのが目的。「環境安全」「青少年育成」「健康福祉」「文化スポーツ」の4つの専門部会を設け、10の「自治会(長)」が中心となって事業を進めています。

交流会では、お互いに活動内容を報告し、高齢化や人口減少など協議会が抱える課題や今後の事業の進め方などについて、意見交換をしました。